

SEKISUI

「水」「光」「空気」を化学する。それが、次の世代のためにできること。

海に、山に、空に、数え切れないほどの生物を育んできた地球。

その永遠と続く大いなる自然のサイクルと共に歩んでいくことでもあります。その鍵を握る技術が、「水」「光」「空気」を化学すること。

持続可能な社会の実現とは、多様な生物たちと共に歩んでいくことでもあります。その鍵を握る技術が、「水」「光」「空気」を化学すること。

積水化学グループではそれをテーマとした環境貢献製品を通じて、豊かな暮らしを実現する社会づくりに貢献しています。

さらに、自然から学ぶ環境に負荷をかけない技術の研究を行う大学や研究機関を「自然に学ぶものづくり」研究助成プログラムで支援。

「生物多様性への配慮」を経営方針の中核に位置づけ、省エネ・省資源を実現する技術革新に取り組んでいます。

10年後も、100年後も、ずっと豊かな未来が続きますように。

積水化学グループは、「サステナブル」経営へ。

際立つ技術で、環境貢献製品。暮らしことを考えてみます。

SPR工法

エスレックフィルム

セキスイハイムの快適エアリー

老朽水管を掘り返すことなく活用してさらせる「SPR工法」。機能の向上と施工時の廃棄物発生をほとんどゼロに近づけています。

安全機能に加え、遮音・遮熱機能で快適な空間を創造する合わせガラス用中間膜。自動車用と建築用があり、省エネ効果で環境に配慮しています。

積水化学工業株式会社

〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2丁目タワー)
お客様相談室TEL:03-5521-0506(東京)TEL:06-6365-4133(大阪)

<http://www.sekisui.co.jp/> 詳しくはホームページへ▶

機運高まる日本企業

事業活動が生態系に与える影響を評価する主な手法

手 法	概 要	主な活用企業
J B I B	事業所敷地が生物にとってすみやかさを基準に100点満点で評価。専門家でなくとも評価可能で、結果を改善活動に反映することを目的に作成	J S R、清水建設、帝人、パナソニックなどが開発に参加
日本版被害算定型影響評価手法(L I M E 2)	化学物質などによる環境影響を被害額として評価	東芝、帝人
J H E P	日本生態系協会が米国 H E P を基に開発。指標となる生物のすみやかさを基準に評価	森ビル、三井物産
W E T	排水による生物への影響を評価	東芝、東洋インキ
企業のための生態系評価(C E V)ガイド	影響を金額価値で評価し、改善活動に反映。世界15社がW B C S D の開発に参加し、4月に公表	日立製作所が応用を検討
富士通独自	米 H E P を応用し、簡易に評価できるようにした。生物のすみやすさを工場周辺も含めて採点	富士通独自

生物多様性条約第11回締約国会議(C O P 11)が10月、インドで開かれます。前回のC O P 10は2010年10月に日本で開かれたこともあり、企業の間に生物多様性保全の機運が一気に盛り上がりました。その成果として企業による具体的な保全活動が動き出している。特に把握が難しかった生態系への影響を数値化する活動が増えています。

影響数値化で目標明確に

すみやすさが基準

富士通は11年度に生物のすみやすさを基準として事業所の生物多様性評価を始めた。生態系の専門家でなくとも敷地内の生物を確認できる独自手法を使い、生物多様性の質向上させる。

富士通は11年度に生物のすみやすさを基準として事業所の生物多様性評価を始めた。生態系の専

門家でなくとも敷地内の生物を確認できる独自手法を使い、生物多様性の質向上させる。

富士通は11年度に生物のすみやすさを基準として事業所の生物多様性評価を始めた。生態系の専

<p